

(様式1) 実践事例

学校名	本宮市立本宮まゆみ小学校	校長名	小濱 伸		
住 所	本宮市本宮字舞台1	児童生徒数	329	学級数	15
T E L	0243-63-2205	ホームページアドレス	www.motomiya.gr.fks.ed.jp		

少人数教育の良さを生かした指導方法の工夫・改善

1 少人数指導の計画等

本校は大規模校解消のため本宮小学校より分離新設され15年目を迎える。各学年2～3学級で推移し、1学級の人数も20～30名程度で比較的指導が行き届きやすい学校規模といえる。

しかしながら、25年度の5学年と26年度の6学年は児童数67名を2学級で編制し、各学級担任の外に少人数指導担当を加え、3名の教員による少人数教育に取り組むことにした。

指導に当たっては、算数科におけるチームティーチング、複数学級合同授業による指導体制の工夫や理科・家庭科における教科担任制の一部導入などの工夫を行い児童一人一人がよさや可能性を伸ばすための教育活動を推進した。

2 実践の概要

算数科においては、通常1クラス2Tのチームティーチングを基本とし、きめ細かな支援が行われるように指導体制・指導過程の工夫改善を図ってきた。

自力解決の場面では、T1、T2の役割を明確にし、つまづきが予想される児童に計画的に個別指導を行った。適用問題へ取り組む場面では、評価問題により学習状況をチェックしてフィードバックしたり、学習が進んでいる児童に対して発展的な課題を与えたりして学習内容が確実に身に付けられるようにチームティーチングの機能を生かしてきた。また、単元末の習熟の時間には、合同授業の時間を設け、児童の習熟度に応じた学習グループを編成し、児童の学力に応じた教材を活用したり、安心して練習できる場を設定したりすることで、児童の学習意欲を高め丁寧な学習支援を行うことができた。

さらに、本校では、現職教育の共同研究の中で学び合いによる算数科の思考力の向上を目指して主題研究を進めているが、チームティーチングの機能を生かして学習形態を工夫し、「分かる・できる」実感を伴う授業実践を積み重ねることができた。

理科、家庭科においては、実験・実習などの体験活動を重視し、分科担任として少人数指導担当教員が主に学習指導に当たった。これらの教科は、専門的・技術的な指導内容も多いため、児童の興味関心を高める教材開発や実践的な態度を養う指導計画の工夫などを取り入れ、効果的な指導を行うことができた。

2学級合同授業の例1



単元全体を通して2学級合同授業を行った。2学級の枠を外して、1グループ6、7人で10グループの学習グループを作り、互いに学び合うことができたようにした。学級担任2名と少人数指導担当1名によるチームティーチングを行った。

2学級合同授業の例2

単元の導入→→→→学級別の授業→→→→習熟・適用問題

1組学級担任+少人数指導担当

2組学級担任+少人数指導担当

2学級合同授業

1組担任

+ 2組担任

+ 少人数指導担当



学年合同による授業を行い、習熟の問題に取り組み、3人の教師による学習支援を行った。

○ →学級担任 ○ →少人数指導担当

3 実践の成果と課題

- チームティーチング、一部教科担任制などを中心とした少人数教育を推進することにより、一人一人の児童をよく見ることができ指導面で早期に対応できるなど、きめ細やかで個に応じた丁寧な指導が展開された。
- 学習場面では、一人一人の児童が役割や発言の機会が増え、多くの経験が積めるようになった。また、複数学級合同授業では、学級の枠を越えた交流も見られ、

より大きな集団の中での学び合いもでき、望ましい集団作りにおいても成果が現れてきた。

- 本校では、主に学級内でのチームティーチングによる授業を中心に少人数教育に取り組んでいるが、学級の枠を取り払い習熟に応じたコース別学習を行ったり、学年を少人数に編制し直してグループ別学習を行ったり、学年内で複線型の授業を行ったりするなど、チームティーチングの機能を生かした柔軟な学習形態をより積極的に授業に取り入れることで、さらに少人数教育の授業を充実させていく必要がある。
- 少人数教育の意義を意識し、指導の工夫・改善をさらに図って行く必要がある。また、少人数教育の授業改善に向けた校内研修の機会を確保し、教職員の指導力の向上を目指していかなければならない。